

保健科 「妊娠・出産と健康」

—— いのちをめぐるドラマと医療技術の進歩 ——

保健科担当 増田 かやの

1. 授業の目的と概要

(1) 「妊娠・出産」をめぐる教育への問いかけ

日進月歩の医学界において、生殖技術も新しい方法が開発され続けている。その一方で、法的な側面や倫理的な問題は解決されないまま、国内における「代理出産」の実施など、事実だけが先行している実情を我々はどう捉えたらよいのだろうか。

また、医療における「意思決定・自己選択」を行う際に、どのくらいの情報が我々に与えられ、理解し、判断できているのだろうか。

生殖医療や遺伝子診断をめぐるさまざまな問題はこれから社会に巣立つ生徒たちにとってどんな意味を持つのか。今日の妊娠・出産をめぐる問題は、ともすると「個」の問題と捉えがちであるが、実は社会とのつながりが必要不可欠であり、倫理的な問題も含めて早急に考えていかなければならない要素の一つとなっている。

また、従来の「妊娠・出産」に関する内容は、基本的な知識として大切な部分ではあるが、「ノーマライゼーション」「共存・共生」と謳われ始めている中で、「健康な赤ちゃんを産むこと」が前提となった内容にとどまっていないかという疑念が湧く。

本時では、「生涯を通じる健康」の分野から発展的な内容として、「出生前診断」を取り上げた。単純に「出生前診断」の賛否を問うのではなく、子どもが育つ環境や子を産み、育てるというのはどういうことなのか、「生命倫理」の立場から考えるとどうなのか、また「リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」の視点から捉えたとするとどんな問題が考えられるのか、をそれぞれの立場から考え意見を交換し、広げることができるような授業づくりを目指したいと考えた。

(2) 指導計画（4～5時間）

1. 妊娠・出産のメカニズム
2. 妊娠・出産期の健康
3. 新しい生殖技術Ⅰ（不妊治療：人工授精、体外受精、代理出産）
4. 新しい生殖技術Ⅱ（出生前診断）（本時）

(3) 評価 (本時)

1. 「出生前診断」の種類 (方法) と問題点について理解できたか。
2. 「選択的中絶」が起こる背景について理解できたか。
3. 子産み・子育ての問題を通して、「個」のあり方と「社会」の関係を自分なりに考えることができたか。

2. 授業案 (本時 1 時間分)

学習活動の展開	指導上の留意点
<div data-bbox="188 701 769 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈ワーク 1〉 ワークシート 1 を各自で実施したあと、グループ内で意見を交換し合う。 方法：A および B の質問について、それぞれ答え、その理由をメモ書きして用紙に貼り付けていく。</p> </div> <div data-bbox="188 898 769 994" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈質問 1〉 ほとんどの人が胎児のときに受けている検査とは何か？</p> </div> <p>○ 超音波検査が出生前診断であることを理解する。</p> <p>○ 出生前診断では、染色体、遺伝子を調べており、おもにダウン症候群を発見するため、に実施されていることに気づく。</p>	<p>○ グループ用ワークシート、メモシート配布</p> <div data-bbox="810 701 1385 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループワークの留意点</p> <p>① 批判をしない。</p> <p>② なるべく多くの意見をだす。</p> </div> <p>○ プリント 1 を配布</p> <p>1. 身近にある出生前診断 超音波検査の写真を提示しながら、検査でわかることを説明する。</p> <p>2. 出生前診断でわかること 染色体の写真を提示しながら、病気の説明を簡単にする。</p> <div data-bbox="810 1216 1385 1305" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>説明 1：超音波検査でわかること 胎児の発育状況、心臓や肺などの異常、四肢の異常などを発見することができる。</p> </div> <div data-bbox="810 1305 1385 1440" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>説明 2：出生前診断では何を調べているのか。 ・染色体、遺伝子を調べている。 ・主にダウン症候群や18トリソミーの発見のために行われている。</p> </div>
<div data-bbox="188 1312 769 1408" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈ワーク 2〉 出生前診断でわかる病気を表 1 から抜き出してみる。</p> </div> <p>○ 出生前診断でわかる主な病気について説明を聞く。</p> <p>○ 特にダウン症候群についての説明を聞く。</p>	<div data-bbox="188 1563 1385 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>説明 3：出生前診断でわかる主な病気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 21 番目 (ダウン症候群) ・ 13、18 番目 (流産胎児に多い) ・ ダウン症候群の赤ちゃんは 1,000 人に一人生まれている。 ・ トリソミーの胎児のほとんどは、流産や死産となる。10ヶ月間の自然淘汰を乗り越え、生まれ出た赤ちゃんであることを伝える。 ・ 障害の程度も個人差が大きい。 <p>(現在では、遺伝子診断でわかる病気がおおよそ 500 種類に上っている。)</p> </div> <p>○ 出生前診断の本来の目的を理解する。</p> <p>3. 出生前診断の目的 出生前診断の問題点をまとめたものを掲示する</p>

説明4：出生前診断の目的

- ① 胎児期に治療を行う。
- ② 分娩方法を決め、出産後のケアの準備を行う。→産むことを前提としている。
- ③ 妊娠を継続させるか否かに関する情報をカップルに提供する。→「選択的中絶」につながっていく。

〈質問2〉

血清マーカーテストの陽性判定の基準となる数値は次のどれか。

「」の確率で、陽性と判定される」

〈選択肢〉

- ① 1/300
- ② 1/30
- ③ 1/3
- ④ 1/2

4. 出生前診断のトリック

出生前診断は「確率」によって、判定されていることに、気づかせる。

説明5：出生前診断の問題点

- ① 確率の問題
 - ・血清マーカーテストでは、1/300以上で、「陽性」と判定する。
 - ・実際の確率はとても低いものなのに、「陽性＝異常」と認識させられ、不要に不安を増幅させる結果になる。
- ② 「予測診断」であって、「確定診断」ではない。
確定させるには、「羊水検査」を受ける。1/300と判定されたすべての妊婦が羊水検査を受けたとすると、およそ5%のひとが「陽性」となる。
- ③ 「羊水検査」も「絨毛検査」も胎児そのものを検査していない。
(検査結果で、「異常がある」といわれていたにもかかわらず、正常な赤ちゃんを出産した例はある。)

- 出生前診断の問題点を理解する。

5. 私たちの中にある「願望」

説明：4の出生前診断の目的が、③に集中してしまった背景とは何か、考えるヒントを与える

説明6：人の遺伝子

- ① 誰でも、病気や障害を起こす可能性のある遺伝子を10個ほど持っている。にもかかわらず、「完璧な赤ちゃん（パーフェクト・ベビー）」を求めようとする（身体的な障害、知的な障害に対する不安、危惧に始まり個人の能力までも、より高いものを望む→理想と現実のギャップに悩む子ども、家族）。
- ② 「完璧」でないといけいいのか、改めて考え直す機会があっても良い。

- 資料を読み、これまでの学習を振り返って自分の意見をまとめる。

6. まとめ

提出用プリント、資料プリントを配布（資料2の説明）
資料「男女の性別検査とその問題」を読み、「もし、一人しか子供を産めないとしたら、どうするか」について考えさせる。

3. 研究協議

研究協議においては、取り上げたテーマ性に共感される意見や「何を選択する」ではなく、「選択する」ためには何が必要か、どう考えていくのかという授業者のメッセージ性があったとの意見が出され、当初の目的が理解されたことがわかった。しかしながら、本授業における最終的な目標がはっきりしないことや社会がどうあるべきかを具体的な方向に考えさせてもよかったのではないかと意見も出された。

ワークにおける意見交換の場面で、こちらの予想以上に生徒の意見が多く出され、意見の集約に手間取り、展開の中で生徒の意見をもっと効果的に取り入れていく余裕がこちらになかったことが悔やまれる。明確な回答がない授業テーマだけに、授業者も生徒もともに手探りの状態であった。生徒の関心を持たせつつより充実した内容にもっていくことが今後の課題といえよう。

また、カリキュラム上、3年生に保健科を置くことへの質疑が行われた。「本授業は卒前教育として3年生ならではの内容だったのではないか」「3年だからこそできる授業」「総合的なことを考えると1、2年生に置くほうが望ましいのでは」等の意見が出された。

4. 今後の課題

「妊娠・出産」をめぐる問題は、今後、社会の動きによって、変わっていくであろう。「まずは知ること」からはじめ、丁寧に学習を積み上げていくことを心がけたい。また、教科の枠組みとして捉えるならば、「保健科」ならではの問題提起とは何かを意識して、関連教科間の連携もさらに詰めていく必要がある。指導内容に関しては、ベーシックなものに新たに表出してくる問題をいかに組み込んでいくか、また、「個」と「社会」のつながりを意識化できるような教材作りをさらに検討していきたい。

参考文献

- ・奈良信雄著「遺伝診断で何ができるか」講談社
- ・佐藤孝道著「出生前診断 命の品質管理への警告」有斐閣
- ・江上彩織著「出生前診断 スクリーニングとの内なる戦い」新風舎
- ・浅井美智子、柘植あずみ編「つくられる生殖神話」制作同人社
- ・優性思想問うネットワーク編「出生前診断 一問一答」解放出版社
- ・大野明子著「子どもを選ばないことを選ぶ」メディカ出版
- ・野辺明子、可部一彦、横尾京子編「障害をもつ子を産むということ」中央法規
- ・鈴木康明著「生と死から学ぶ」北大路出版
- ・加藤秀一、石田仁、海老原暁子著「図解雑学 ジェンダー」ナツメ社
- ・佐藤秀峰著「ブラックジャックによろしく」第3、4巻 講談社